１１．１．金子研究室（札幌医科大学大学）との合同研究会

日　時：平成 27 年 11 月 5 日（木曜日）

会　場：畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

1）レクチャー

・金子文成（札幌医科大学保健医療学部）
　「運動錯覚を応用した研究ストリーム」

2）演題発表

・大住倫弘（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）
　　「腕神経叢麻痺患者に対する VR リハビリの効果」
・信迫悟志（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）
　　「映像遅延装置を用いた身体性研究」
・今井亮太（畿央大学大学院健康科学研究科）
　　「橈骨遠位端骨折後患者に対する腱振動刺激による運動錯覚の効果」
・片山　脩（畿央大学大学院健康科学研究科）
　　「感覚運動不一致に関連する脳活動-EEG study-」
・山下達郎（札幌医科大学）
　　「歩行開始時における運動準備電位について」
・阿部大豊（札幌医科大学）
　　「動画を用いた視覚刺激による運動錯覚と運動イメージの組み合わせが
　　短潜時皮質内抑制に及ぼす影響」
・柴田恵理子　（札幌医科大学）
　　「異種感覚入力の統合により知覚する運動感覚」
・奥山航平（札幌医科大学）
　　「運動イメージの想起と視覚誘導性自己運動錯覚の併用は運動イメージ想起単独
　　より効果的であるか -運動パフォーマンス，皮質脊髄路興奮性，事象関連脱同期
　　からの検討-」

札幌医科大学 金子文成先生の研究室 Sensory Motor Science Sports NeuroScience Laboratory の方々にお越しいただき，合同研究会を開催した．

畿央大学ニューロリハビリテーションセンターからは，森岡周教授，大住倫弘特任助教，信迫悟志特任助教，大学院生の今井亮太先生，片山脩先生から話題提供が行われた．金子文成先生の研究室からは，主に視覚誘導性自己運動錯覚に関する研究成果を報告して頂いた．

両研究室は，臨床介入手段としての運動イメージ，運動錯覚，バーチャルリアリティ，ニューロモデュレーションなど共通した研究領域を持っており，非常に活発な意見交換が行われた．今後もこのような交流を通じて，お互いの研究精度を高めていき，何よりもリハビリテーションの対象者に貢献できる研究を推し進めていきたいと考えている．